

西条市における グリーン・ツーリズムの展開

豊かな地域資源

西条市は愛媛県の東部に位置している。北部は瀬戸内海に面し、南部は西日本最高峰の石鎚山（標高1,982m）を背景に山岳地帯となっている。山岳部を源流とする加茂川の河口には広大な干潟が広がり、鳥類やカニ類等の多くの生き物を育んでいる。東予海岸一帯にはカブトガニが生息し、かつては「カブトガニ天国」と呼ばれていた。市内には「うちぬぎ」と呼ばれる地下水の自噴井が見られ、豊かな水資源を供給している。

10月に開催される秋まつりは四国三大祭りの一つにあげられ、勇壮華麗なだんじりが各地区内を廻り、多くの観衆がその競演に酔いしれる。他には四国霊場の札所、温泉、史跡、文化財を有



西条祭



地下水「うちぬぎ」

また、西条市は県下有数の農業地帯である。生産量日本一の愛宕柿や裸麦、春の七草をはじめ、水稲、ほうれん草、大豆、いちご、梅などは県内一の収穫量を誇っている。これらの豊富な地域資源の存在、そして海から山までが30km圏内とコンパクトにまとまっているのが西条市の大きな特徴である。

協議会の設立

西条市の基本計画では農業振興施策の一つとしてグリーン・ツーリズムの推進を掲げている。豊かな地域資源を活かすために平成19年7月に「西条市グリーン・ツーリズム推進協議会」を設立した。様々な視点からグリーン・ツーリズムを推進するために、農林漁業等体験実践者、生活研究グループ、交流施設管理者、旅館業者、旅行業者、商工業者、観光協会等、多様な関係者および団体で協議会は構成されている。協議会設立の当初、事務局は西条市農林水産部農林水産課に置かれていたが、平成21年11月に協議会を運営する専門の職員を雇用し、今年5月末には西条市から独立して組織を運営している。

子ども農山漁村交流プロジェクト

平成20年度にスタートした「子ども農山漁



西条市
グリーン・ツーリズム
推進協議会

宮田 浩



はきちんと叱り、良いことをした時や頑張った時には褒めてあげることを念頭においている。

体験後の子供達は生き生きとし、成長が垣間見られ



柿の収穫体験

村交流プロジェクト」は総務省、文部科学省、農林水産省3省の連携事業である。小学校を対象に農山漁村での長期宿泊体験活動を通して、学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動を目的としている。今後、全国2万3千校の小学校（1学年120万人を目標）で体験活動を展開することを目指している。当市は平成21年度に農林水産省が選定する全国のモデル地区62に選ばれ、児童の受け入れのための体制整備を進めている。平成20年から小学校の受け入れを開始し、昨年度は県内外から4校、そして今年度は2校が市内の農家に宿泊し農作業を体験した。

この体験では日中は農家の方と一緒に農作業を行う。農作物の種まきや苗の定植、収穫、他には草むきや摘果等の地道な作業も含まれている。農作業以外では食事作りと後片付け、布団の上げ下ろし等を行い、農家の方と一緒に普段のありのままの生活を送る。受け入れ農家は子供達を「お客様扱い」はせず、子供が悪いことや危険なことをした時にはきちんと叱り、良いことをした時や頑張った時には褒めてあげることを念頭においている。

る。また農業の楽しさや辛さ、食の大切さ、人と接することの喜びなどの「気づきの種」が心の中に播かれたことを感じる。受け入れ側の農家の方々も、子供達と接することで元気をもらい、受け入れを生きがいとして実感している。

農業版インタープリテーション

「インタープリテーション (Interpretation)」という言葉は多くの人にとってなじみのない言葉である。インタープリテーションとは「単に事実に基づいて知識を伝えることではなく、直接体験や教材により、事物や事象の背後にある意味と相互の関係を解き明かすことを目的とする教育的活動」である。アメリカでは国立公園をはじめ、博物館や水族館、動物園等の施設での教育プログラムや解説ボード等に応用されている。

西条市ではインタープリテーションの手法を取り入れてグリーン・ツーリズムを展開していきたいと考えている。私は昨年の11月に東京からIターンで西条市に移住してきたが、伝えたいものがたくさんある。完熟イチゴやブルーベリーの甘さ、新鮮な野菜の美味しさ、農

作物が多くの手間と時間をかけて苦労して作られていること、農林漁業の背景にあるものを、体験活動を通して多くの人に伝えていきたいと思っている。また、ゆつくりと時間を楽しむことや人との触れ合いの素晴らしさも伝えていきたい。

作物が多くの手間と時間をかけて苦労して作られていること、農林漁業の背景にあるものを、体験活動を通して多くの人に伝えていきたいと思っている。また、ゆつくりと時間を楽しむことや人との触れ合いの素晴らしさも伝えていきたい。

今後は

グリーン・ツーリズムの理解や体験プログラムの不足、農業のほかに林業・漁業・伝統工芸をテーマにしたプログラムの開発、体験活動実践者の育成等と課題は山積している。これらの課題を解決し、「周遊型」、「通過型」、「見物型」という従来の観光を抜け出した農林漁業そのもの（何も無い、あるがまま）を楽しむ時間消費型の観光として発展させ、西条市の豊かな地域資源を活かした独創的なグリーン・ツーリズムを築き上げていきたいと考えている。



完熟のいちご



農園内に作られたカフェ(ゆきもと農園)